学校番号	2002

令和８年度　芸術科

教科	芸術科	科目	書道Ⅲ	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	書Ⅲ　（教育図書出版）						
副教材等	自主教材プリント						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

書道の創造的な諸活動を通じ、生涯にわたり書を愛好する心情と書の文化や伝統を尊重する態度を育成するとともに、書道Ⅰ・Ⅱで学習した内容を更に深め、感性を磨き、個性豊かな書表現や鑑賞活動に取り組む。
授業の進め方については、授業毎の目標を明確化し、表現(書作の意図・書写技能)と鑑賞を並行して扱い、評価については各単元・授業毎の作品・ワークシート提出等でおこなう

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
文字や書の伝統と文化について幅広く理解し、創造的かつ効果的な書表現をするために、使用する筆記具の特性を理解し、構想に基づいた表現の技能を習得できている

【思考力、判断力、表現力等】
意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美の味わい深く捉えたりすることができる。

【学びに向かう力、人間性等】
積極的に書道の創造的な諸活動に取り組むことができる。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	文字や書の伝統と文化について幅広く理解し、創造的かつ効果的な書表現をするために、使用する筆記具の特性を理解し、構想に基づいた表現の技能が身についている。	書のよさや美しさを感受し、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美の味わい深く捉えたりすることができるようになる。	主体的に書の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通じて心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	「漢字仮名混じり」 の学習	◆グループ学習を行い、相互批正をおこなうことで、コミュニケーション能力と他者の作品を尊重する心情を育てる。 ◆漢字仮名混じり文で作品制作を行なうための、基本的な表現方法を硬筆で行う。 ◆詩句のイメージ・内容を理解し、字形の変化や紙面への配置など、ふさわしい表現を構想・工夫し、硬筆で作品の草稿を作成する。 ◆毛筆での制作にあたり、詩句のイメージ・内容が伝わるように用筆法を工夫する。	a:構想をもとに、表現する技能を身に付け表している。 b:語句の意味を考え、制作時の表現意図が作品に反映するよう工夫している。 b:作品の相互批評を行い、自他の作品の意図を考え、個々にしか書けない文字の尊さを感じその良さを味わっている c:表現とは何かを理解し、積極的に取り組んでいる。 作品の唯一性を尊び、丁寧に作品を扱っている。 製作段階に応じ、各観点を提示	作品	WS 作品	観察 WS
		◆上記、制作した作品を文化祭に展示できるようパネルに表具する。 ◆各自の作品が唯一物であることを理解し、物品などに対し大切に扱う心情を育てる。	b:表具の際のマット・化粧紙の色調など自分の作品に合うよう、工夫している。 c:作品表具の際、作品の唯一性を尊び、丁寧に作品を扱っている。		作品	WS 作品
	硬筆	◆硬筆で実用書を学び常識的な書式や文化を理解する。 ◆行書体での「暑中見舞い」を制作する。	a:ハガキの書式を理解し、丁寧さを持って制作し、工夫している。また、紙面の文字の大きさ・バランス・配置など適正である。 b:行書の特徴・技法を適切に表現できている。 c:書式に関心を持ち取り組んでいる	WS 作品	WS 作品	WS
2学期	古典臨書学習 臨書作品制作	◆書道Ⅰ・Ⅱで学習した篆書・隷書・楷書・行書・草書・仮名を書道Ⅲの教科書を中心に順次学習する。 ◆書道Ⅰ・Ⅱで修得した技能・知識を確認しつつ、感性をもって臨書での表現を工夫する。 ◆様々な書体の中から、興味をもち得意となる古典を発見させる。	a:表現に必要な用筆法を理解し、身に付けている。 b:各古典の特徴を考察し、美しさや趣を味わい、構想に応じ表現を工夫している。 c:興味を持った古典について、積極的に作者や時代背景を探求し作品を制作している。	作品	WS 作品	WS 観察

3学期	共同作品 ・「卒業の歌」	◆卒業式に歌う「卒業の歌」を題材に、協同作品を制作する。 ◆歌詞全体を受講生全員で分担し、半紙程度の作品サイズで制作し卒業式に展示する。 ◆担当部分の前後する作品の構成を考慮し、常に全体でコミュニケーションをとりながら作業を進める事で、共同作品としての作品レベルの向上と責任感の共有を意識付ける	A:詩句や曲のイメージを共有し、作品の方向性を理解した用筆、技能を身に付けている。 b:自分の作品だけでなく、共同作品として構成するにあたり、自他の作品が活かせるよう相互批正を有効に活用し、自分の表現を構想・工夫している。 c:表現とは何かを理解し、学生生活最後の作品として、受講生全体で協調・協力の念を持って作品制作に積極的に取り組んでいる。	作品	作品	作品 WS

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度

評価方法記載欄の「WS」はワークシートとする。